

消化管の非上皮性腫瘍は悪性リンパ腫と GIST であるが、粘膜下腫瘍形態を示すものは GIST の頻度が極めて高い。GIST の概念は KIT 陽性腫瘍として理解されるようになった。しかし頻度は低い KIT 陰性腫瘍の存在も明らかになり、その問題点、さらには最も臨床的に重要な悪性度についても本号では簡潔に記載されている。さらに imatinib mesylate (Glivec) による治療も注目されているが、その適応も記載され、GIST に関する最近の進歩が総説とトピックスで十分に述べられ、本号の目的の 1 つは果たされた。一方、臨床診断面では粘膜下腫瘍の良悪性の鑑別のために種々の新しい画像診断、EUS ガイド下穿刺生検

あるいは吸引細胞診などの診断の試みが紹介されている。いまだ十分でない面もあるが、今後、診断精度が高くなり、良悪性診断ができる可能性が紹介されている。治療面では外科手術が一般的であるが、GIST も含めて今や局所切除が一般的になってきた。その他、個々の施設では滅多に経験しない多数の消化管粘膜下腫瘍あるいは腫瘍様病変が網羅され、上皮性腫瘍との鑑別も含めて詳細に記載されている。これほどのまとまった消化管粘膜下腫瘍の企画は初めてで、日常臨床で大いに役立つことと確信している。執筆にかかわった先生方の労力に感謝する次第である。

胃と腸

4 月号 (第 39 巻・第 5 号) 予 告

発売予定
定 価

4 月 25 日
2,520 円

主題／深達度診断を迷わせる食道表在癌—その原因と画像の特徴

序 説	深達度を迷わせる食道表在癌—その原因と画像の特徴	東海大学医学部・外科	幕 内 博 康
主 題	食道表在癌の深達度診断を誤った要因—X 線の立場から	東北公済病院・内科	加 藤 久 人
	深達度診断を誤った食道表在癌の検討		
	—X 線の立場から	慶應義塾大学医学部・放射線診断科	杉野 吉則・他
	食道表在癌の深達度診断を誤った要因—内視鏡の立場から	佐久総合病院・胃腸科	小山 恒男・他
	食道表在癌の深達度診断を誤った要因—内視鏡の立場から	都立駒込病院・内視鏡科	門馬久美子・他
	高周波数細径超音波プローブによる食道表在癌の		
	深達度を誤認させる要因と画像の特徴	埼玉県立がんセンター・消化器内科	有馬美和子・他
	食道表在癌の深達度診断を誤った要因		
	—病理の立場からの検討	東海大学医学部・病理診断学	鬼島 宏・他
座談会	食道表在癌—深達度診断のピットフォール	都立墨東病院・外科	吉田 操・他

胃と腸 (第 39 巻 第 4 号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

FAX (03) 3815-7802 / 3815-7982

E-mail: itocho@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/itocho/

2004 年 4 月 24 日発行 (毎月 25 日発行)

特別定価 5,775 円 (本体 5,500 円 + 税 5%)

2004 年年ぎめ予約講読料 35,010 円

(増刊号 5,775 円を含む 13 冊) (送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷 (株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 文 栄 社 ☎ (03) 3814-8541

・早期胃癌研究会は、当研究会、早期胃癌検診協会およびエーザイ株式会社の三者の共催で行われている。

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2004, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は株医学書院が保有します。

・JICLS < 日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に株日本著作出版権管理システム (電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199) の許諾を得てください。

・医学書院ホームページ (インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp>

(担当) 小松原・飯村・山中・今田